

まだ80歳

三橋昭子

茨城県・73歳・主婦

「恋文」

こんなことばも縁遠くなったとあなたは思うでしょうね。でも私はいつまでも、あの日の出逢い、そして2ヶ月余りの交際期間のことは忘れられません。勿論、交換恋文も。

お互いに勤めを持つ22歳の私と31歳のあなたとの逢瀬。生活も厳しい昭和24年のことですもの、毎日の出逢いがとても楽しみでした。あなたはもう忘れてしまったでしょうが、毎夕デートしたあの道も、50年もの間にずい分変わりましたね。

とうもろこしのかなたに真っ赤な大きな太陽が沈むのを二人してじーと見ていた時、ことばはなくても、私はそれは幸せいっぱいでした。喫茶店もない戦後のデートですもの。同じ道を行ったり来たり、何も語らずとも、あなたの側にいるだけで身も心も温もりを感じたことをいつも思いだしています。お互いに年を重ねると、その思いは年々深まるばかりですもの。

帰り際に交換するラブレター、それはとても嬉しかったものです。教員として勤めていた私は、教室で子どもたちが帰ってからペンを持つことも何回かありましたね。

児等去りて音なき部屋に筆とりて

恋しき人への便りしたたむ

君恋し夕やけぐもを仰ぎみて

そっと呼ばわる君が呼び名を

結婚してただ一つ悔しかったことがあります。それは新婚時代のこと、何が原因だったかは忘れましたが、私の一番大切な宝物である二人のラブレターにあなたは火をつけてしまったのでしたね。所有権は二人、いや保存していたのは私。その時ほど悔しかったことは忘れられません。あの時流した涙の味といっしょに。涙をぬぐうのも忘れ、燃える炎を見つめて。

82歳になったあなた。素敵な51年間ありがとうございます。今、病氣療養中のあなたを看護できる喜びがあります。まだ80歳、早く元気になってまた旅行を楽しみましょうね。あなたと結婚できて私とても幸せです。